

会 告

会費納入についてのお願い

昭和 48 年分会費の納入期がまいりました。会費は毎年 12 月に 1 年分を前納するか、または毎年 12 月および 6 月の 2 回に分けて、おのおの 6 カ月分を前納していただくことになっておりますので、別送の振替用紙または現金書留にてお払込み下さいますようお願いいたします。

会員団体所属の会員にあつては幹事宛お払込下さい。なお昭和 47 年 4 月 4 日の第 57 回通常総会において会費が変更されました。

記

	会費年額	入会金
正 会 員	4000円 (従前 3000円)	400円 (従前 300円)
学 生 会 員	2000円 (/ 1500円)	200円 (/ 100円)
外 国 会 員	4500円 (/ 3600円)	450円 (/ 360円)

宛先 100 東京都千代田区大手町1-9-4 経団連会館 3 階
社団法人 日本鉄鋼協会 郵便振替口座 東京 193 番

昭和 48 年講演大会開催日のお知らせ

昭和 48 年春秋講演大会は下記の日程で開催されますのでご案内申し上げます。

記

1. 春季 (第85回) 講演大会
期 日：昭和 48 年 4 月 5 日(木), 6 日(金), 7 日(土)
場 所：東京工業大学 (東京都目黒区大岡山 2-12-1)
2. 秋季 (第 86 回) 講演大会
期 日：昭和 48 年 10 月 19 日(金), 20 日(土), 21 日(日)
場 所：九州大学 (予定)

「鉄と鋼」特集号 “圧延技術の進歩” 原稿募集のお知らせ

「鉄と鋼」では “圧延技術の進歩” をテーマに下記により特集号を発行することになりました。内容は各種鋼材の圧延技術の進歩、矯正、剪断、熱処理制御などの周辺技術ならびに圧延理論に関するものを含みます。これらの内容に関連ある最近の研究および技術報告を募集いたします。ふるつてご投稿下さるようご案内いたします。

記

1. テ ー マ：圧延技術の進歩
2. 投稿締切日：昭和 48 年 3 月 31 日 (土)
3. 発行予定：「鉄と鋼」第 59 年第 13 号 (昭和48年11月号)
4. 原稿送付先：100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館 3 階
(社) 日 本 鉄 鋼 協 会 編 集 課 (Tel. 03-279-6021)

第 85 回講演大会講演募集案内

申込（原稿同時提出）締切り 昭和48年1月22日（月）

本会は第85回講演大会を昭和48年4月5日(木)、6日(金)、7日(土)の3日間東京工業大学（東京目黒区大岡山）において開催することになりました。下記要領により講演募集をいたしますので、奮つてご応募下さるようご案内いたします。

講演希望者は昭和48年1月22日（月）までに申込用紙と講演概要原稿を提出して下さい。

講演ならびに申込要領

1. 講演内容 鉄鋼の学術、技術に直接関連あるオリジナルな発表
(設備技術、I Eなどに関する発表を歓迎いたします)
2. 講演時間 1 講演につき講演15分、討論5分
3. 講演前刷原稿
 - 1) 原稿は目的、成果、結論が理解しやすいよう簡潔にお書き下さい。
 - 2) 設備技術に関する原稿には計画にあつての基本方針、特色、成果等を必ず盛込んで下さい。
 - 3) 商品名等は原則としてご遠慮願います。
 - 4) 謝辞は省略して下さい。
 - 5) 原稿枚数は原則として所定のオフセット用原稿用紙（1600字詰）1枚とします。しかし内容的に止むを得ない場合は2枚までを認めます。（いずれも表、図、写真を含む）原稿が2枚にわたり執筆された場合には編集委員会で査読のうえ1枚にまとめなおし願うことがありますのであらかじめご了承下さい。
 - 6) 原稿は別添「講演概要原稿の書き方」をご覧のうえ、タイプ印書あるいは黒インクまたは墨を用い手書きとして下さい。
 - 7) 原稿用紙は別記（N 225 ページ）のように有償頒布いたしております。
8. 講演申込資格

講演者は本会会員に限ります。非会員の方で講演を希望される方は、所定の入会手続きを済ませたうえ、講演申込みをして下さい。また共同研究者で非会員の方も入会手続きをされるよう希望いたします。
9. 講演申込制限

講演申込みは1人3件以内といたします。
10. 申込方法 本誌添付の講演申込用紙に必要事項を記入の上、講演前刷原稿とともにお申し込み下さい。
11. 申込用紙の記載について
 - 1) 申込用紙は(A)、(B)とも太字欄をのぞき楷書で記入下さい。
 - 2) プログラム編成上の参考といたしますので、「講演分類欄」に講演内容が、次ページ講演分類のいずれに該当するか、番号でご記入下さい。
 - 3) スライドの要否は該当するものに○印をつけて下さい。
 - 4) 講演者には氏名の前に○印を、また研究者氏名にはローマ字読みを付して下さい。
 - 5) 講演要旨は、情報管理のための文献検索カードに利用いたしますので講演内容が明確に把握できるようおまとめ下さい。
12. 申込みの受理

下記の申し込みは理由のいかんにかかわらず、受付はいたしませんので十分ご注意下さい。

 - 1) 所定の用紙以外の用紙を用いた申込
 - 2) 必要事項が記入されていない申込
 - 3) 講演内容が鉄鋼の学術、技術に直接関連がないと認められる場合
 - 4) 単なる書簡または葉書による申込ならびに電報、電話による申込
 - 5) 文字が読みづらいもの、印刷効果上不適当なものと認められるもの
13. 申込締切日 昭和48年1月22日（月）17時着信まで
申込用紙、講演前刷原稿を同時提出のこと。
14. 申込先 100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館3階
(社) 日本鉄鋼協会 編集課

講演分類

製 鉄						製 鋼				加 工		
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
製鉄基礎	原料・燃料	高炉製鉄	特殊製鉄	フェロアロイ	製鉄耐火物	製鋼基礎	溶解・精錬	造塊	製鋼耐火物	塑性加工	熱処理	表面処理・防食
加 工			性 質									
14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
鑄造	粉末冶金	溶接	金属物理解	金属組織	鋼の性質	鉄鋼材料	鑄鉄・鑄鋼	分析	試験・検査技術	計自動制御	IEその他術	その他

オフセット用原稿用紙有償頒布について

講演大会における講演前刷原稿は、所定のオフセット用原稿用紙を用いお書きいただいておりますが、下記により有償頒布いたしますのでお知らせいたします。

講演申し込みは別掲のごとく前刷原稿を同時に提出することになっておりますので、講演発表ご希望の方は締切日より20日以上余裕をもつて購入手続をとられるようお願いいたします。

記

1. 頒布料金 1枚5円 (頒布の枚数は下記のとおり限定いたします。なお料金は送料込)
 5枚 95円, 20枚 215円, 40枚 375円
 10枚 135円, 25枚 270円, 50枚 500円
 15枚 190円, 30枚 295円

100枚以上は小包となりますので係までお問い合わせ下さい。

2. 申込方法 ①オフセット用原稿用紙, ②枚数, ③送付先明記のうえ, ④料金(切手でも可)を添えお申し込み下さい。
3. 申込先 100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館3階 日本鉄鋼協会 編集課

日本鉄鋼協会関西支部

湯川記念講演会開催のお知らせ

本会関西支部では下記により湯川記念講演会を開催いたしますので多数ご参加下さいますようお願い申し上げます。

1. 日 時 昭和 47 年 12 月 9 日 (土) 15:00~17:00
2. 場 所 住友クラブ
 大阪市西区土佐堀船町 11-1 TEL (06) 443-1986
 (地下鉄四ツ橋線肥後橋下車 南西へ徒歩1分)

1. 海洋開発機器について

川崎重工業(株)海洋開発本部開発室長 平野美木君

2. 溶接技術の最近の進歩

大阪大学工学部教授 荒田吉明君

参加費 無料

昭和 48 年秋季 (第 86 回) 講演大会討論会

討論講演募集のお知らせ

昭和 48 年秋季 (第86回) 講演大会は昭和 48 年 10 月 19 日(金), 20 日(土), 21 日(日)九州大学 (予定) において開催されますが, その討論講演を下記により募集いたしますので奮ってご応募下さるようご案内いたします。

1. 討論会テーマ

1) 高炉の溶融帯における反応について 座長 川合 保治君

高炉シャフト下部より羽口へかけての溶融帯における反応は高炉の特性を支配する重要な因子で, 今後研究を進めるべき重要課題と考えます。

溶融帯における炉内状況を含めて各種の反応 (溶鉄, スラッグの生成分離, スラッグの還元, 溶鉄の炭素吸収, イオウ, 珪素, マンガンなどの挙動その他) について討論し今後の発展の足がかりとしたいと考えます。

2) 溶鋼の複合脱酸について 座長 盛 利貞君

鋼の量より質に重点をおかなければならぬ今日において, 溶鋼の脱酸は製鋼技術のポイントであります。しかも脱酸について現在関心を持たれるのは複合脱酸ではないでしょうか。ところが複合脱酸の効果は必ずしも明確とはいえません。平衡論, 速度論, 脱酸生成物の性状あるいは現場実績など, 基礎・応用いずれでも構いませんから複合脱酸に関する研究論文を發表し討論に参加されることを期待します。

3) ロール成形の技術的諸問題について 座長 加藤 健三君

電縫鋼管, 軽量形鋼などの生産の主力となつているロール成形加工について, 成形ライン構成, 成形ロール孔型, 成形ロール荷重, 成形時の材料変形およびエッジストレッチ, 成形品の残留応力など, 成形加工上の技術的諸問題について討論を期待する。

生産加工技術的な内容と塑性加工研究的な内容のどちらでも差支えない。

4) 鋼およびステンレス鋼の耐海水性 座長 久松 敬弘君

海洋開発のための構造材料としての鉄鋼には, 海水というかなり高濃度の塩化物水溶液との戦いがむずかしい問題としてある。しかも海水は単なる塩化物水溶液にとどまらず, 生物の付着によつて 'すきま' と呼ばれるジオメトリーを構造物表面につくり出す。このことによつて, 海水中での腐食はさらに局所的性質をおびる。

普通鋼・低合金耐海水鋼・高合金鋼を通じて Localized Corrosion に対する抵抗性を中心とした討論を行ないたい。

5) 鉄鋼中の格子欠陥と水素原子 座長 橋口 隆吉君

鉄鋼中における各種格子欠陥と水素原子との相互作用の問題, 水素単独の場合でも水素原子を格子欠陥的立場から取扱つた問題などを討論する。

2. 申込締切日 昭和 48 年 2 月 23 日 (金)

3. 申込方法 本誌綴込みの申込用紙 (ブルー色) に必要事項ならびにアブストラクトをお書きのうえお申し込み下さい。

4. 討論講演の採否 討論講演としての採否は, 前記ご提出のアブストラクトにより検討のうえ決めさせていただきますので, あらかじめお含みおき下さい。

5. 講演前刷原稿締切日 昭和 48 年 5 月 30 日 (月)

討論講演として採用された方は, 本会所定のオフセット原稿用紙 4 枚以内 (表, 図, 写真を含め 6700 字) にタイプ (12ポ) 印書あるいは黒インクまたは墨で楷書で明りようにお書きのうえ, ご提出下さい。

6. 講演テーマ・講演者の発表 「鉄と鋼」第59年第8号 (昭和48年7月号) にて発表いたします。

7. 講演内容の発表 「鉄と鋼」第59年第9号 (8月号) に講演内容を掲載いたします。

8. 討論質問の公募締切日 昭和 48 年 9 月中旬

前記第9号掲載の講演内容をご覧のうえ, 質問対象講演を明記のうえ, 本会編集課宛ご送付下さるようお願いいたします。

申込先: 100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館 3 階
日本鉄鋼協会編集課 Tel. 03-279-6021 (代)

(A) 講演申込書 (太字欄以外を明瞭にご記入下さい)

受年月日	付日	和文題目	勤務先	学位称号	ローマ字氏名 (講演者〇印)			
							
受番	付号						
講演番号	演号						
講演分	演類						
講演演要旨			勤務先 (勤務先所在地) 講演者連絡先					
						千番号	電話	

(B)

受番	付号	和文題目	勤務先	学位称号	ローマ字氏名 (講演者〇印)
				
講演番	演号			
講演時	演間			
講演分	演類			
スライド (〇印)				
	要否	英文題目		

討 論 会 講 演 申 込 書

昭和 48 年度秋季 (第86回) 講演大会討論会

(太字の欄以外を明瞭にご記入下さい)

申込討論会 の 番号 を ○で 囲 んで 下 さい	1. 高炉の溶融帯における反応について 2. 溶鋼の複合脱酸について 3. ロール成形の技術的諸問題について 4. 鋼およびステンレス鋼の耐海水性 5. 鉄鋼中の格子欠陥と水素原子						
学 年	付 日	受 番	付 号	講 番	演 号	討 一	
和 文 題 目							
英 文 題 目							

勤 務 先		学 位 称 号		ローマ字 氏 名 (講演予定者○印)
連絡先 (勤務先所在地)				
				千 番 号 電 話

注) 講演要旨は裏面にご記入下さい

第 19 回西山記念技術講座開催のお知らせ

テーマ：鉄鋼材料の溶接

第 19 回西山記念技術講座を下記により開催いたしますので、多数ご来聴下さるようご案内いたします。なお本講座は去る 11 月 21 日、22 日大阪で開催されたものと同一内容の講座であります。

協賛 溶接学会

1. 期 日 昭和 48 年 1 月 23 日 (火), 24 日 (水)

2. 会 場 農協ホール

(千代田区大手町 1-8-3 農協ビル 9 階 TEL. 03-279-0311)

3. 演題ならびに講師

第 1 日

9:30~	最近の溶接法の進歩	石川島播磨重工業 溶接センター	太田 一郎君
13:00~	溶接アーク下での冶金反応	東北大学工学部	小林 卓郎君
15:00~	溶接時の材質変化	金属材料技術研究所 溶接研究部	稲垣 道夫君

第 2 日

9:30~	溶接材料の基礎 (棒とフラックス)	神戸製鋼所 溶接棒事業本部	応和 俊雄君
13:00~	鋼材の溶接性とその推定	住友金属工業 中央技術研究所	伊藤 慶典君

4. 講演内容

最近の溶接法の進歩 太田 一郎君

原子力化工機、新鋭原動機、大型船舶輸送機関など、主要な産業分野に見られる代表的重機械、構造物の溶接技術に関する展望を通じて、近年における溶接法の発展状況を紹介したい。アーク溶接法は依然代表的な溶接技術であり、その広い分野で進められる近代化の動向、抵抗溶接法の発展、溶造肉盛など新しい応用分野にも伸びるエレクトロスラグ溶接法、電子ビーム溶接法の利用分野、急速に関心が高まるプラズマ溶接法などを中心に述べる。

溶接アーク下での冶金反応 小林 卓郎君

アーク溶接過程はきわめて高温で短時間の反応である。したがって、反応の真の解析は困難であるが、本講では最初に溶接アークの温度、電極先端からの溶滴移行、溶接金属の形成など溶接現象の一般的解説を行ない、ついでガス-メタル反応、スラグ-メタル反応について若干の考え方を述べる。とくに溶接金属の窒素吸収に重点を置き、窒素吸収防止あるいは逆にその利用などについてもふれる。

溶接時の材質変化 稲垣 道夫君

ここでは被溶接材料すなわち母材の溶接による材質変化につき、基本的な事項について述べる。まず①溶接熱サイクルの特性と冷却過程の定量化について述べ、つぎに②溶接ボンド付近の熱影響部の冷却時間と変態挙動ならびに組織変化との関係について述べる。また③最近の構造用鋼の JIS 規格、WES 規格などにおける溶接性の評価法について述べ、④代表的な溶接性試験方法についても述べる。

溶接材料の基礎 (棒とフラックス) 応和 俊雄君

被覆溶接棒について被覆剤中の成分の果す機能、溶接過程における溶融スラグと溶鋼との化学反応に関する平衡論、溶鋼中へのガスの溶解、脱酸反応、脱硫反応、脱磷反応、気孔生成の問題、溶着金属中のガス成分の問題などを主として溶接化学冶金の面から説明する。

鋼材の溶接性とその推定 伊藤 慶典君

溶接用鋼材の内でも溶接によつて問題となる、低合金高張力鋼の溶接熱影響部割れ、溶接ボンド脆化、および溶接熱影響部の応力除去焼なまし割れなどを中心として述べる。

とくに、これらの溶接性を溶接する以前に予め推定することを試み、一応実用的にそれに成功したので報告する。

5. 聴講無料 (事前の申込みは必要ありません)

6. テキスト代 2000 円

7. 問い合わせ先 日本鉄鋼協会編集課 TEL. 03-279-6021 (代)

第 4 回真空冶金国際会議 (ICVM) 参加者および講演募集

日本鉄鋼協会, 日本金属学会, 日本真空協会, 共催のもとに 1973 年 6 月 4 日から 8 日まで, 東京経団連会館において, 第 4 回真空冶金国際会議が開催されます。下記により参加者ならびに講演の応募をいたしますので, 奮つて申し込み下さるようご案内申し上げます。

このほど, セカンド・サーキュラーができましたので, その要点をお知らせいたします。

1. Section

本国際会議には, 次の 8 Section が設けられます。

- 1) Physical Chemistry of Vacuum Metallurgy (Kinetics, Thermodynamics, etc.)
- 2) Vacuum Melting and Refining Processes (Induction, VAR, Electron Bombardment, Plasma, Vacuum Degassing of Metals, etc.)
- 3) Process Metallurgy in Vacuum (Pidgeon Process, Vacuum Distillation, Thermal Decomposition, Reduction in Vacuum, etc.)
- 5) Vacuum Deposition of Coatings and Self-supported Structures
- 6) Properties and Application of Vacuum Metallurgical Products
- 7) Vacuum Equipment for Metallurgical Processes
- 8) Welding and Casting under Vacuum, Economics of Vacuum Metallurgical Operations and Products, Other Topics in Vacuum Metallurgy

2. 特別講演 特別講演には, 次の 4 名の方が予定されております。

Dr. R. F. Bunshah, Professor of Metallurgy, University of California, U.S.A.

“Physical Vapor Deposition of Metals, Alloys and Ceramics”

Prof. Dr. A. N. Morozov, Director of the Research Institute of Metallurgy, U.S.S.R.

“Steel Vacuum Refining. Structure and Properties of Metal”

Dr. T. Satio, Professor, Tohoku University, Japan

“Absorption and Evolution of Gases by Molten Iron Alloys”

Prof. Dr. M. Wahlster, Leybold-Heraeus GmbH & Co., West Germany

“Möglichkeiten und Grenzen der Vakuum-Metallurgie und der Umschmelzverfahren für die Stahlherstellung (Possibility and Steel Manufacture)”

3. 用語 英語のみ。

4. 論文発表の受付

論文発表を希望の方は, 論文申し込み用紙に必要事項を記載の上, 審査用論文を 500 words の英文にて 2 部作成し, 1972 年 11 月 30 日まで事務局へご提出下さい。

5. 参加申し込み受付

参加申し込み用紙に必要事項を記載の上, 1973 年 3 月 31 日までに事務局へお申し込み下さい。

6. 登録料等の払込方法

(1) 東京銀行丸ノ内支店への振込 名義 社団法人日本鉄鋼協会
I.C.VM and E.S.R. 口 普通預金 No. 106294

(2) 事務局への送金 小切手または現金

本国際会議に参加希望の方ならびに論文発表を希望の方は, セカンド・サーキュラー (参加申し込み用紙および論文申し込み用紙を含む) をお送りいたしますので, 下記宛お申し込み下さい。

申込先 〒100 東京都千代田区大手町 1 丁目 9 番 4 号 経団連会館 3 階
日本鉄鋼協会国際会議事務局 電話 (03) 279-6021

第4回エレクトロスラグ国際会議シンポジウム(ESRシンポジウム) 参加者および講演募集

日本鉄鋼協会主催のもとに、1973年6月7日、8日の両日、東京経団連会館において、第4回エレクトロスラグ国際シンポジウムが開催されます。本国際シンポジウムの参加と、講演募集を下記によりいたしますので奮ってご応募下さるようご案内いたします。

このほど、ファースト・サーキュラーができましたのでその概要をお知らせいたします。

1. Subjects

- (1) Electrochemistry and physico-chemical phenomena in ESR proceses
- (2) Designs, equipment development and operations information relative to very large (50 ton to 200 ton) ingot capacity electrosrag furnaces
- (3) Development in hollow casting ESR processes
- (4) Development in ESR processes for titanium and super alloys
- (5) Operation modes and quality of the products
- (6) Technical aspects of multi-electrode operations
- (7) Others related to ESR technology

2. 用語 英語のみ.

3. 論文発表の受付

論文発表を希望の方は、論文申し込み用紙に必要事項を記載の上、審査用論文を 500 words の英文にて、2部作成し、1972年12月20日までに事務局へ提出下さい。

4. 参加申し込み受付

参加申し込み用紙に必要事項を記載の上、1973年3月31日までに事務局へお申し込み下さい。

5. 登録料等の払込方法

(1) 東京銀行丸ノ内支店への振込

名義 社団法人日本鉄鋼協会 ICVM and ESR 口
普通預金 No. 106294

(2) 事務局への送金 小切手または現金

本国際シンポジウムに参加希望の方ならびに論文発表を希望の方は、ファースト・サーキュラー（参加申し込み用紙および論文申し込み用紙を含む）をお送りいたしますので、下記宛お申し込み下さい。

申込先：〒100 東京都千代田区大手町1丁目9番4号 経団連会館3階

日本鉄鋼協会国際会議事務局 電話 (03) 279-6021

昭和48年度塑性加工春季講演会（第4回）

共 催：日本塑性加工学会、日本機械学会

開催日：昭和48年5月10日(木)、11日(金)、12日(土)

会 場：オリンピック記念青少年総合センター（渋谷区代々木神園町3-1）

講演申込締切：昭和48年2月10日(土)

講演申込要項：はがきに横書で「昭和48年度塑性加工春季講演会申込」と標記し、①題目および分野別番号 ②概要(50字以内) ③所要時間(30分以内) ④スライドの有無 ⑤所属学会名、会員資格、氏名(講演者に*印) ⑥勤務先 ⑦通信先

申込先：日本塑性加工学会(106 東京都港区六本木5-2-5 トリカツビル内)

講演論文集：オフセット印刷、1292字詰原稿用紙4枚(図表を含む)、執筆要領、原稿用紙は後日講演者に送付します。

論文集原稿締切：昭和48年3月17日(土)

分野別番号：1. 理論および弾塑性解析 2. 計測および材料試験 3. 材料および挙動 4. 工具 5. 潤滑
6. 加工機械 7. 圧延 8. 押し出し 9. 鍛造 10. 引抜き 11. せん断 12. 板材成形 13. 転造
14. 矯正 15. 表面加工 16. 高速加工 17. 高圧加工 18. 接合 19. プラスチック 20. ロー
ル成形 21. スピニング 22. その他

鉄鋼標準試料委員会ニュース

日本鉄鋼協会で、製造・頒布している“鉄鋼標準試料”に関する試料の入荷状況、製造状況、技術解説などの情報を提供する場として“鉄鋼標準試料委員会ニュース”欄を開設いたしております。

I 試料整備状況

- (1) 10月入庫 240-5(0.009% S), 241-3(0.023% S), 368-4(0.014% N), 601-4(SKS2), 605-4(SKT4), 609-4(SKH55), 651-4(SUS27)
- (2) 分析中 801(ロンピン赤鉄鉱), 810(テキサダ磁鉄鉱), 811(ゾングン鉄鉱石), 860(マンガン鉱石) 870(クロム鉱石), 430(SS41), 460(SWRH4), 機器分析用工具鋼シリーズA, 683-1(インコネル 600), 680-1, 681-1(インコロイ 800)
- (3) 試料調整中 200(0.01%C), 201(0.05%C), 851(焼結鉄), 803(ハマスレー鉄鉱石), 881(ほたる石)
- (4) 素材製造中 100(製鋼用1種1号), 102(製鋼用3種1号), 330(アルミニウム専用鋼), 651(SUS27), 機器分析用標準化シリーズ

II 新しい標準試料

- (1) けい光X線分析用標準試料(1セット115万円を予定)

けい光X線分析方法のJISが近く改正され、鋼種別定量法のほかに鋼種にとらわれないうで分析を可能とする補正定量法が併記規定されることになりました。この結果元素としてはSi, Mn, P, S, Fe, Ni, Cr, Mo, Cu, W, V, Co, Ti, Al, Nb, Ta, Sn, Pb, Bi, As, Zr, Se, Ce, Laの定量分析に適用されますが、これら元素の定量分析に使用する標準試料を、このほど日本鉄鋼標準試料委員会が製造いたしました。本標準試料はFe基二元合金85種類、Fe基三元合金81種類、計166種類が1セットとなつております。

(機器分析用品種一覧)

商品名			形状および価格	商品名			形状および価格
検 量 線 ズ (A)	150-2	検量1号	35mm×35mm ×30mmの角柱状 6種1組 ¥50,000	肌 シ リ 焼 鋼 ズ (A)	512-2	S9CK	35mm×35mm ×30mmの角柱状 6種1組 ¥50,000
	151-2	〃 2号			513-2	SCr 21	
	152-2	〃 3号			514-2	SCM 22	
	153-2	〃 4号			515-2	SNC 21	
	154-2	〃 5号			516-2	SNCM 24	
	155-2	〃 6号			517-2	SNCM 26	
普 通 鋼 ズ (A)	420-5	SWRM 3	35mm×30mmφ の円柱状 6種1組 ¥50,000	エ シ リ 具 鋼 ズ (A)	600-3	SKS 1	35mm×35mm ×30mmの角柱状 6種1組 ¥50,000
	421-5	SWRM 4			601-3	SKS 2	
	430-5	SS4 1			602-3	SKS 11	
	440-5	SWRH 2			603-3	SKD 4	
	460-5	SWRH 4			604-3	SKD 6	
	461-5	SWRH 6			605-3	SKT 4	
標 準 化 ズ (A)	162-1	標準炭素鋼 1	35mm×30mmφ の円柱状 6種1組 ¥50,000	高 シ リ 速 度 鋼 ズ (A)	606-3	SKH 2	35mm×35mm ×30mmの角柱状 6種1組 ¥55,000
	163-1	〃 2			607-3	SKH 3	
	164-1	〃 3			608-3	SKH 4A	
	165-1	標準合金鋼 1			609-3	SKH 55	
	166-1	〃 2			610-3	SKH 57	
	167-1	〃 3			611-3	SKH 9	
強 靱 鋼 ズ (A)	500-2	SCM 1	35mm×35mm ×30mmの角柱状 6種1組 ¥50,000	ス シ テ リ ン ノ レ ズ 鋼 (A)	650-3	SUS 24	35mm×35mm ×30mmの角柱状 6種1組 ¥50,000
	501-2	SCM 2			651-3	SUS 27	
	502-2	SCM 4			652-3	SUS 32	
	503-2	SNC 1			653-3	SUS 41	
	504-2	SNC 2			654-3	SUS 42	
	505-2	SNCM2 3			655-3	SUS 43	
強 靱 鋼 ズ (B)	506	SCr 1	35mm×35mm 30mmの角柱状 6種1組 ¥50,000				
	507	SCM 3					
	508	SNC 3					
	509	SNCM 5					
	510	SNCM 6					
	511	SNCM 8					

12月中に頒布予定ですが、限定頒布ですからお早にお申込み下さい。

(2) 化学分析用標準試料

680-1, 681-1(インコロイ 800), 683(インコネル 600) 100g 約 8000 円

860-1 (マンガン鉱石), 870-1(クロム鉱石) 100g 約 4000 円

いずれも 1 月入庫予定です。

(化学分析用品種一覧)

品名	正味重量 (g)	単価 (円)	品名	正味重量 (g)	単価 (円)		
鉄シリーズ 鉄ズ(A)	100 製鋼用 1種 1号	150	4,000	強シリーズ 鉄ズ(B)	506-2 S Cr 1	150	6,000
	102 // 3種 1号	150	4,000		507-2 S CM 3	150	6,000
	110-3 鋳物用 1種 1号A	150	3,500		508-2 S NC 3	150	6,000
	111-5 // 1種 1号B	150	3,500		509 S NCM 5	150	6,000
	112-2 // 3種 1号A	150	3,500		510-2 S NCM 6	150	6,000
検査線専用鋼(A)	150-4 検量 1号	150	6,500	肌シリーズ 焼鋼ズ(A)	512-2 S 9 CK 21	150	6,000
	151-4 // 2号	150	6,500		513-2 S Cr 22	150	6,000
	152-4 // 3号	150	6,500		514-2 S CM 21	150	6,000
	153-4 // 4号	150	6,500		515-1 S NC 24	150	6,000
	154-3 // 5号	150	6,500		516-2 S NCM 26	150	6,000
	155-3 // 6号	150	6,500		エンジニア 鋼ズ(A)	600-3 S K S 1	150
微量元素ズ	156-2 微量元素 1号	150	6,000	601-4 S K S 2		150	6,000
	157-2 // 2号	150	6,000	602-3 S K S 11		150	6,000
	158-2 // 3号	150	6,000	603-3 S K D 4		150	6,000
	159-2 // 4号	150	6,000	604-3 S K D 6		150	6,000
	160-2 // 5号	150	6,000	605-4 S K T 4		150	6,000
	161-2 // 6号	150	6,000	高速度鋼(A)	606-1 S K H 2	150	6,000
専用鋼シリーズズ	182-1 酸素専用鋼	22	6,000		607-2 S K H 3	150	6,000
	183-2 //	22	6,000		608-2 S K H 4A	150	6,000
	184-5 //	22	6,000		609-4 S K H 55	150	6,000
	185-1 //	22	6,000		610-2 S K H 57	150	6,000
	200 炭素専用鋼	150	5,000		611-2 S K H 9	150	6,000
	201 //	150	5,000	ステンレス(A)	650-2 S U S 24	150	6,000
専用鋼シリーズズ	230-2 リン専用鋼	150	5,000		651-4 S U S 27	150	6,000
	231-2 //	150	5,000		652-3 S U S 32	150	6,000
	232-2 //	150	5,000		653-2 S U S 41	150	6,000
	240-5 イオウ専用鋼	150	5,000		654-2 S U S 42	150	6,000
	241-3 //	150	5,000		655-2 S U S 43	150	6,000
	242-4 //	150	5,000	フェロロイ	701 フェロマンガン	150	5,000
	330-1 アルミニウム専用鋼	150	5,000		720-2 フェロシリコン	150	5,000
	331-1 //	150	5,000		730-1 フェロクロム	150	7,500
	332-1 //	150	5,000	鉄鉱石シリーズ(A)	800-1 ロンピン赤鉄鉱	100	4,000
	366-3 窒素専用鋼	150	5,500		801-1 インド赤鉄鉱	100	4,000
	367-2 //	150	5,500		802-2 酸化鉄	50	4,000
	368-4 //	150	5,500		810-1 テキサダ磁鉄鉱	100	4,000
普通鋼ズ(A)	420-3 SWRM 3	150	5,000		811-1 ツンゲン鉄鉱石	100	4,000
	421-4 SWRM 4	150	5,000		830-1 フィリップピン砂鉄	100	4,000
	430 SS 41	150	5,000	850-1 マルコナペレット	100	4,000	
	440-3 SWRH 2	150	5,000	ほたる石	880-1 北 鮮国	70	3,500
	460 SWRH 4	150	5,000		881 中	70	3,500
	461-4 SWRH 6	150	5,000		882-1 夕	70	3,500
強シリーズ 鉄ズ(A)	500-1 S CM 1	100	5,000		* 枝番号のない試料は製造中		
	501-1 S CM 2	100	5,000				
	502-1 S CM 4	100	5,000				
	503-1 S NC 1	100	5,000				
	504-1 S NC 2	100	5,000				
	505-1 S NCM 23	100	5,000				